

北辰 TOKYO



岐阜県立多治見北高等学校同窓会
東京支部会報 第32号
2018年9月29日

猛暑を超えて、元気につながろう！ 多治見北高同窓会

多治見北高等学校同窓会東京支部 会長 羅本 礼二 (15 回生)

今年の関東は観測史上最速となる6月29日に梅雨が明け、日中は太陽が照りつける猛暑日、夜間は熱帯夜が続くというまさに体力勝負の夏になりました。そのような毎日でも、数年前まで日本最高気温記録ホルダーであり、今年も40度超えを3度記録(本原稿執筆時点)し、何度もテレビで市内が映し出された多治見の北高を母校とする皆様におかれましては元気にお過ごしのことと推察いたします。

さて、29回目となる今年の多治見北高同窓会東京支部総会・懇親会は11月17日(土)にJR山手線や地下鉄南北線の駒込駅から徒歩数分の女子栄養大学にて開催を予定しています。今年の幹事は下一桁に9のつく回生になります。恒例のフォーラムは、(株)リクルートキャリア在職でビジネスプロデューサーの加藤茂博氏(19回生)に、【人生の意思決定は何故難しいのか～セカンドライフに向けて～】というテーマで講演して頂く予定です。皆さんの今後の人生のヒントになる内容になるのではないかと思います。懇親会では例年、会場のあちこちで懐かしい昔話や地元のトピックスなど、尽きない話題で盛り上がりますが、今年も女子栄養大学ならではの美味しい料理や自慢のデザートがより一層楽しい時間を演出してくれます。ぜひ、昨年に続いて本年も多く皆さんのご参加をお待ちしています。

私たち東京同窓会(多北高同窓会東京支部)は1990年に設立さ

れ、会員数約千人で年に一度の総会・懇親会の開催(11月)と会報の発行を行っています。さらに、年に数回のゴルフコンペを開催しています。また、多治見の北高同窓会本部や関西支部のみならず、東濃地区の他校同窓会とも定期的に交流を行い、地元の動向や共通話題について情報交換を行っています。



同期会は同じ年に北高に通った者同士の横のつながりを保ちますが、世代を越えての同窓会は先輩や後輩と縦にもつながり、縦糸と横糸がつながることによって、大きな布(面)の広がりを作りだします。どうぞ皆さま、高校時代の若い心で多治見北高同窓会に参加して、心のよりどころとしての広がりにも包まれてください。微力ながら皆様のご支援、ご協力を賜りながら、多治見北高同窓会東京支部を盛り上げていく所存ですので、あらためましてよろしくお願いたします。

母校の思い出と母校への思い

多治見北高等学校 校長 小栗 英幸 (20 回生)

昭和52年4月に入学した我々20回生368名。1、2組は本館2階へ、3、4組は平屋の北舎へ、5組から8組は新館の3、4階(現北舎の東階段の東側)へ配置された。2年生、3年生のいる中舎(木造2階建て)を中心とした校舎4つは全て土足仕様。加えて、体育館、旧体育館、プール、部室棟等の施設が敷地内に点在するなど、小規模ではあるが、まるで大学のキャンパスのような生活が始まった。しかし、ウグイス張りの涼しく快適な北舎はほどなく解体された。夏を迎え、蒸し暑い本館の物理講義室と化学講義室へと移動させられた3組と我々4組は、クーラーもない時代のこと、生徒も先生も汗だくの悪しき環境を耐えることとなった。一方で、冬はとても暖かく、

睡魔と戦う65分であった。最初の数学の授業で、柔道部顧問の先生に目をつけられ、~~目~~のお眼鏡にかなない、北舎にあった薄暗い準備室に~~連れ込まれ~~で、~~強引な~~熱心な勧誘の末に柔道部へ入部させられたことも、思い出の一つである。



入学後間もなく、担任から3年生の現国の教科書にある「『である』

ことと『する』こと』を読むように言われた。北高生「である」ことに慢心するのではなく、北高生として「する」べきことを追求するよう教えていただいた。今の北高生では「自律」できない、とのことから、前年度まで自由であった遠足の服装が制服又は体操服となってしまった時も、担任は「『である』ことと『する』こと」を引用され、自由であることと自由であるために何をすべきか、を語ってくださった。1年時、北辰祭は4日間、球技大会は春も秋も1.5日間であったが、2年目からは北辰祭3日間、球技大会は各1日となった。「自主」を叫び「自学」を主張するも、裏付けのない要求ばかりでは叶えられないはずもなかった。常日頃「君たちが相手にするのは、全国の高校生だ」と言われ続けていたことから、「全国には学校祭がもっと…」とか「制服のない高校だって…」と言ってはみたものの、当時の我々の実力は全国の高校生と争うにはあまりにも非力だと認めざるを得なかった。北高生「である」ことに胡坐をかき、北高生であるため「すべきことを果たしていなかったつけが回ったのであった。かくいう私がようやく「自学」に目覚めたのも、卒業後、浪人してからのこ

とだった。

教育を語る中に「不易」と「流行」という言葉がある。「不易」とは、どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらないもの、変えてはいけないもの。「流行」とは、時代の変化とともに変えていく必要があるもの。北高の「不易」とは何か。それは言うまでもなく「自主・自律・自学」だ。いつの卒業生に聞いても同じである。これこそ北高の誇りであり、恒に座を替えない北辰である。北高で学んだ者なら誰しも、卒業してからもずっと思い続けていること、銘として心の底、頭の片隅に刻まれているものであろう。それでは北高の「流行」とは何か。これからの社会の変化を展望し、絶えずその在り方を見直し、改めるべきは勇気をもって速やかに改め、柔軟に対応していくもの。ますます変化が激しくなるこれからの時代を生き抜き、リードしていくために必要なことは、やはり「自主・自律・自学」なのである。目指す中身は絶えず進化し続けているけれど、その姿勢は変わらないのである。

陶都中学の修学旅行 (東京にて)

阿部 仁美

(23 回生 日本アイ・ピー・エム株式会社勤務)

2018年5月23日、母校陶都中学の3年生200名が修学旅行に上京しました。宿泊ホテルは第一ホテル両国、そのディナーの後に卒業生の講話として、お呼びいただきました。

何を話せば14-15歳の後輩の心に響くのか、いろいろ考えながら準備して、1時間ほどお話ししました。人工知能のこと、IT企業の仕事、そして「なぜ数学や理科を勉強するのか」「なぜ国語を勉強するのか」「なぜ歴史を学ぶのか」「なぜ英語が大切なのか」「なぜ部活を頑張るのか」、私自身の経験と、いろいろ調べた内容をまとめ、お話ししました。

スター・ウォーズ、スティーブ・ジョブズ、ナイチンゲール、アイザック・ニュートンなどにも登場してもらい、先人の知見・経験、グローバル化、などこれからの何十年に向かって船出をしていく後輩たちに話しかけてみました。すると、どこに反応してくれたのか想定以上に反応が良く、さすが後輩、打てば響く、40年という時間を越えた会話ができました。

写真は、1週間後に送られてきた感想文です。この中

から、来春また数十名の当北高の後輩が誕生するのだと思います。これからの可能性あふれる人生に幸多かれとエールを贈ります。



17 回生も北高も還暦

(17 回生同窓会幹事)

東京タワーの建った昭和 33 年に多治見北高等学校は開校。何と今年で創立 60 周年。奇しくも同じ年度内に産声を上げた我々 17 回生は、多治見駅北口に隣接する TREE by NAKED tajimi(デジタルアートと食を融合させた新しい空間)において、去る 8 月 11 日に還暦同窓会を開催しました。遠藤勝先生、林修先生、伊藤信子先生、松田嘉久先生の 4 人の恩師にもご臨席賜り総勢 133 名というなかなかの出席率でした。半分青かった往時(昭和 49 年から 52 年)に想いを馳せつつ、賑やかに旧交を温めました。余談ですが、東濃が舞台で大人気の NHK 朝ドラ「半分青い」の漫画家ボクテ君の母親役で声の出演を務めたのは、同期の声優真山亜子(川人康代)さんです。

まず初めに、還暦同窓会を記念して、17 回生一同から北高にヤマハのドラムセットを寄贈致しました。これは同期の中田卓也君がヤマハ株式会社の社長をしておられるご縁によるもの。ご縁と申せば、

贈呈を受ける側としてゲスト参加をお願いした多治見北高等学校の現校長、小栗英幸先生は、同期の平松真由美さんの弟さんで北高の 20 回生。同窓からの校長就任は創立以来だそうです。当日は姉弟仲良くご出席でした。

会は歓談と会食が中心で席はくじ引き、何十年ぶりに初めて会話を交わす仲間もいました。会場内は当時流行った音楽を BGM に、会場特設のプロジェクトンマッピングで高校時代の懐かしい写真の数々を映しながら進行しました。恩師の先生方には近況のご報告を頂き、サプライズ企画のビンゴゲームでは同窓生に縁のある品々が数多く当り、盛り上がる中で一次会閉会。二次会は引き続き多治見駅南側にある、イタリアンバル Borco において 80 人以上の出席を得て和やかに行われました。二次会終了後も別れ難く、急遽の三次会が各所で開催されたとのことでした。

5 年周期で実施してきた同窓会。既に次回が楽しみ、というお声を頂き、幹事一同感無量です。皆様次回までお元気で過ごして下さい。



東京支部だより 第 28 回総会・懇親会 大いに盛り上がる

昨年 11 月 18 日(土)、第 28 回東京支部総会・懇親会を「女子栄養大学駒込キャンパス」において開催いたしました。総会では第 27 期事業報告及び決算報告、第 28 期事業計画及び予算案について審議・承認されました。

恒例のフォーラムでは丹羽和賀美氏(18 回生)に「診療室から見える現代の心模様」と題して「神経内科医から研修を始め精神科医になって 33 年、心と身体の関係の研究に取り組み、現代人の心の病の本質と氾濫する情報の裏側を、多くの臨床経験を元にお話して戴きました。懇親会では羅本会長の挨拶、松田嘉久先生の乾杯の発声でスタートし、和気あいの懇談のなか、校歌合唱、来年への幹事引継ぎ、最後に山本康夫元会長(7 回生)の締め挨拶

で無事終了することができました。

参加者 113 名、来賓の方々(桜井正之校長、恩師の斎藤誠先生、



松田嘉久先生、松田治道先生、本部同窓会から伊藤恒一会長(12回生)、五島達明副会長(12回生)、加藤文雄副会長(14回生)、関西支部から水野尚之会長(13回生)、そして古川雅典多治見市長(11回生) 東京城陵会(恵那高東京同窓会)から伊藤和徳会長の方々でした。

懇親会出席者の回生別人員は下表のとおりでした。



回生別出席者人数

卒業年	回生	出席人数
1961	1	3
1962	2	10
1963	3	6
1964	4	0
1965	5	1
1966	6	2
1967	7	6
1968	8	8
1969	9	0
1970	10	3
1971	11	1
1972	12	3
1973	13	9
1974	14	1
1975	15	3
1976	16	1
1977	17	7
1978	18	5
1979	19	2
1980	20	0
		71

卒業年	回生	出席人数
1981	21	3
1982	22	2
1983	23	1
1984	24	7
1985	25	2
1986	26	3
1987	27	5
1988	28	0
1989	29	1
1990	30	1
1991	31	0
1992	32	0
1993	33	0
1994	34	0
1995	35	0
1996	36	0
1997	37	0
1998	38	1
1999	39	0
2000	40	0
		26

卒業年	回生	出席人数
2001	41	0
2002	42	0
2003	43	0
2004	44	0
2005	45	0
2006	46	0
2007	47	0
2008	48	4
2009	49	0
2010	50	0
2011	51	0
2012	52	0
2013	53	0
2014	54	0
2015	55	0
2016	56	0
2017	57	1
		5



フォーラム講師の丹羽和賀美さん

